

【法人の概要】

代表者名	理事長 坂内 啓二	所管部(局)課	農政部 畜産課		
所在地	北杜市小淵沢町10060-3	電話番号	0551-36-3945		
ホームページURL	http://www.nns.ne.jp/ass/baji	E-mail アドレス	baji@nns.ne.jp		
資本金(基本財産)	1,000 千円	設立年月日	昭和57年6月17日		
主な出資者等	出資順位	出資者名等		出資額	出資比率
	1	山梨県		400 千円	40.0 %
	2	北杜市		400 千円	40.0 %
	3	山梨県馬術連盟		200 千円	20.0 %
	4			千円	0.0 %
	5			千円	0.0 %
	6			千円	0.0 %
	7			千円	0.0 %
	8			千円	0.0 %
	9			千円	0.0 %
	10			千円	0.0 %
出資その他	団体(者)		千円	0.0 %	
その他			千円	0.0 %	
合計			1,000 千円		
設立経緯等	(設立) 本法人は、「かいじ国体」(昭和61年10月)で整備した馬術競技用施設を管理運営し、これを有効活用して事業を実施する法人として、県・小淵沢町・馬術連盟の出捐により設立。 (目的) 馬術技術の普及奨励と優良乗用馬の育成供給等を行い、もって畜産の振興に寄与すること。 (経緯概況等) 国体終了後も県の馬事振興を図る拠点とし、各種大会の開催、研修会開催等により馬術普及に貢献している。				

【主要事業の概要】

事業名	内容	事業費(単位:千円)		
		平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業1 馬事技術普及奨励事業	各種大会・合宿の受け入れ、施設の利用を通して馬事普及を図った。県有競技馬を中心とした調教技術の向上に努め選手強化の実績を挙げた。	47,717	60,718	53,133
事業2 優良乗用馬育成供給事業	優秀馬の繁殖事業に伴う生産育成による乗用馬と競走転用馬の再調教を施し広く乗馬関係者に供給した。	2,053	2,986	2,678
事業3 その他法人の目的を達成するために必要な事業	地域と連携しホーストレッキング大会や馬の町小淵沢まつり及び小中学生の課外授業等の開催を支援し、地域スポーツ文化及び馬事振興発展に協力した。	1,539	1,990	1,770

【組織】

各年度 4月1日現在	平成 30 年度					令和 元 年度					令和 2 年度							
	職 員	プロ パー	県 職 員 派遣	県 職 員 兼務	県 O B	そ 他	職 員	プロ パー	県 職 員 派遣	県 職 員 兼務	県 O B	そ 他	職 員	プロ パー	県 職 員 派遣	県 職 員 兼務	県 O B	そ 他
理事(常勤)	1				1		1				1		1				1	
理事(非常勤)	9			3		6	9			3		6	8				3	5
監事(常勤)	0						0						0					
監事(非常勤)	2					2	2				2	2	2					2
評議員	5					5	5				5	5	5					5
計	17	0	0	3	1	13	17	0	0	3	1	13	16	0	0	3	1	12
管理職	0						0						0					
一般職員	2	2					2	2					3	3				
臨時職員	5					5	5				5	5	4					4
非常勤職員	0						0						0					
計	7	2	0	0	0	5	7	2	0	0	0	5	7	3	0	0	0	4
令和2年度 プロパー職員 の年齢構成 (令和3年4月1日現在)	年齢	~20	21~30	31~40	41~50	51~60	61歳以上	合計						平均年齢				平均年収
	男性				1			1	役員				※					(千円)
	女性				1	1		2	常勤				※					(千円)
	合計	0	0	0	2	1	0	3	職員				48					4,500

※個人の年齢、年収が容易に推定できるため不記載

【経営の状況】

(単位:千円)

項 目		平成29年度	平成30年度	令和元年度	増減
正味財産の状況	基本財産等運用益				0
	受取会費・受取寄付金				0
	受託事業収益	29,418	29,179	22,302	△ 6,877
	自主事業収益	21,890	40,137	39,292	△ 845
	受取補助金等	24,947	30,222	27,474	△ 2,748
	その他の収益				0
	経常収入 計	76,255	99,538	89,068	△ 10,470
	事業費	79,769	95,091	90,377	△ 4,714
	うち人件費	26,143	26,090	26,722	632
	管理費	2,496	1,970	1,833	△ 137
	うち人件費	1,501	1,220	1,178	△ 42
	経常支出 計	82,265	97,061	92,210	△ 4,851
	当期経常増減額	△ 6,010	2,477	△ 3,142	△ 5,619
	経常外収入		200		△ 200
	経常外支出	1,027	71	71	0
	当期経常外増減額	△ 1,027	129	△ 71	△ 200
	当期一般正味財産増減額	△ 7,037	2,606	△ 3,213	△ 5,819
当期指定正味財産増減額	337,093	△ 30,223	△ 27,474	2,749	
正味財産期末残高	657,118	629,501	598,814	△ 30,687	

(単位:千円)

項 目		平成29年度	平成30年度	令和元年度	増減
財務状況	流動資産	194,053	50,096	28,277	△ 21,819
	固定資産	617,497	585,048	575,249	△ 9,799
	資産 計	811,550	635,144	603,526	△ 31,618
	流動負債	153,592	4,899	3,638	△ 1,261
	うち短期借入金				0
	固定負債	840	744	1,073	329
	うち長期借入金				0
	負債 計	154,432	5,643	4,711	△ 932
	正味財産	657,118	629,501	598,815	△ 30,686
	うち基本財産への充当額	1,000	1,000	1,000	0
うち特定資産への充当額	567,589	537,367	509,892	△ 27,475	

(単位:千円)

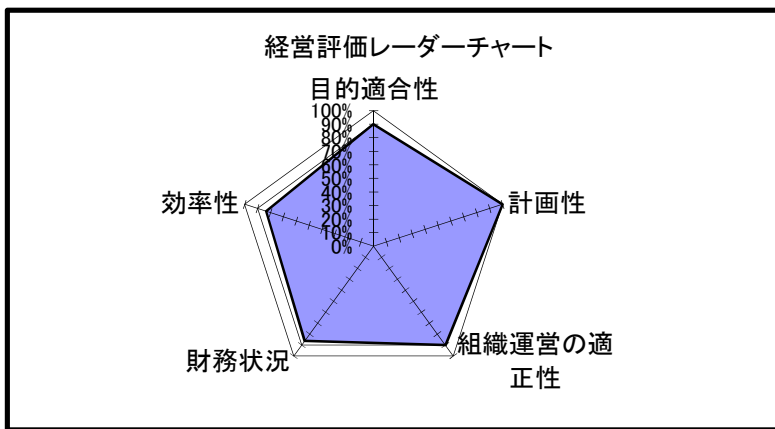
項 目		平成29年度	平成30年度	令和元年度	増減
県の財政的関与の状況	負担金				0
	人件費補助金				0
	人件費以外の補助金				0
	運営費補助金	0	0	0	0
	事業費補助金	362,039			0
	補助金 計	362,039	0	0	0
	人件費委託金	8,112	5,490	5,558	68
	人件費以外の委託金	6,201	8,334	9,631	1,297
	委託金 計	14,313	13,824	15,189	1,365
	県支出金 計	376,352	13,824	15,189	1,365
	県の財政的関与の割合(%)	493.5	13.9	17.1	3.2
県貸付金残高				0	
県債務負担実際残高				0	

【県の財政的関与の状況(令和元年度)】

項目	内容・目的・金額
負担金	
補助金(運営費)	山梨県馬術競技場の管理運営に要する経費 平成29年度より0円
補助金(事業費)	
委託金	県有競技馬の能力を効果的に発揮させるための飼育管理業務に係る委託経費と、民間強化指定馬への飼育管理費・調教費を併せ 15,189千円
県債務負担実際残高	

【自己評価・評点集計】:(経営評価算出表により、法人自らが評価した結果を記入)

評価の視点	評価ポイント	評価項目数	満点	評点	得点率
目的適合性	出資法人が当初の設立目的あるいは公益目的と適合した業務を行っているかを問う視点	3	10	9	90.0%
計画性	出資法人が長期的ビジョンを持って計画的に事業運営に取り組んでいるかを問う視点	3	10	10	100.0%
組織運営の適正性	組織・人事・財務等の内部管理体制が適切に整備、運用され、かつ情報公開による透明性の確保が適切であるかを問う視点	3	10	9	90.0%
財務状況	出資法人の経営の安全性や収益性を問う視点	7	44	38	86.4%
効率性	出資法人の組織の管理運営上における人的・物的な経営資源が有効活用されているかを問う視点	5	18	15	83.3%
合 計		21	92	81	88.0%



【警戒指標数】

目標達成度	
正味財産増減	
流動比率	
借入金依存率	
債務超過	
県の将来負担見込	
回収不能債権	
県の債務処理補助等	
公益認定基準抵触	

【出資法人の自己評価】:(各評価の視点毎に、法人自らによる分析・検証の結果及び対応策を記入)

目的適合性	設立目的に沿った業務を実施し、地域の観光協会、商工会等関係者で組織される山梨県馬術競技場サポートクラブとのコラボで大規模馬術大会運営をサポートすることで、競技場入場者を増やして大会を盛り上げる等、地域の活性化に大きな成果をあげた。
計画性	経営計画及び事業運営合理化計画に基づいた管理運営を今後も行っていく。
組織運営の適正性	組織の人員構成、業務チェック機能は概ね良好である。また、各種規定等も随時見直しを行っており、ホームページを活用して活動内容や財務状況等も積極的に公開している。
財務状況	前年度の国の委託事業が実施されなかったことで、収入が減額したこと、次年度の大規模大会誘致のために、年度末に既舎改修工事を実施したため、支出が増加したことで、令和元年度の当期経常増減額はマイナスとなったが、借入金もなく、正味財産期末残高はプラスであり、全体的に見ると健全な経営となった。
効率性	施設の有効利用を図り、必要最小限の人員で事業収入を確保できるよう効率的な業務の推進に努める。
総合的評価	前年度よりも収入が減少し、支出が増加したため、当期経常増減額はマイナスとなったが、目的にあった計画的な運営に努力した結果、借入金もなく、正味財産期末残高はプラスであった。



対応策	今後は、収入効率の良い合宿誘致を積極的に推進して、預託馬や県の補助金に頼らない経営を目指す。 12月から2月まで冬期間、大会、合宿等は実施されず、閉場状態となるが、この間の収益性確保として、流鏝馬等の冬のイベントを積極的に誘致していく。
-----	---

【法人担当部局の所見】:(法人所管部局による各評価の視点毎の分析、評価)

目的適合性	当初の設立目的に適合した業務を実施し、また各種イベント等の開催で地域振興に寄与しているなど公益性も高い。 目標達成度については、昨年度と比較し大会数は減少したものの、強化トレーニング参加団体等の増加により利用数は増加している。引き続き誘致活動に積極的に取り組み大規模大会の誘致等により利用数を増やし、集客力の向上にむけ努力していく。
計画性	経営計画並びに事業運営合理化計画に基づいた管理運営を引き続き行っていく必要がある。
組織運営の適正性	組織の人員構成、業務チェック機能は概ね良好である。また、各種規定等も随時見直しを行っており、ホームページを活用して活動内容や財務状況等も積極的に公開している。
財務状況	国の委託事業が実施されなかったことによる収入減や、次年度の大規模大会誘致のために既舎改修工事を実施したことによる支出増により、令和元年度の当期経常増減額はマイナスとなったが、借入金もなく、正味財産期末残高はプラスであり、全体的に見ると健全な経営といえる。
効率性	地域イベントが、台風の影響で中止になったものの、強化トレーニング参加団体等の増加等により施設利用人数が増加している。 施設の有効利用を図り、必要最小限の人員で事業収入を確保できるよう効率的な業務の推進に努める必要がある。
総合的評価	目的に合った計画的な運営を行っている。前年度よりも収入が減少し、支出が増加したため、当期経常増減額はマイナスとなったが、借入金もなく、正味財産期末残高はプラスであった。 今後も引き続き、新たな大規模大会の誘致と大会の継続的な開催に努めることで収益を増加させ自立的経営を目指していく必要がある。

【総合評価】:(経営評価委員会、経営検討委員会による総合評価)

総合評価 ランク	A	A 得点率80%以上かつ警戒指標なし B 得点率70%以上80%未満または警戒指標が1 C 得点率60%以上70%未満または警戒指標が2 D 得点率60%未満または警戒指標が3以上
総合的所見	<p>得点率 88.0 %</p> <p>警戒指標数 0</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度に比べ大会数や主催大会の参加馬数は減少したが、施設利用者数や強化トレーニング等の参加団体数は増加し、大会開催数や主催者大会の参加馬数も目標を上回っており、安定した運営が行われている。 ・令和元年度は研究機関からの受託事業が実施されなかったことにより収入が減る一方、人件費及び修繕費の増加により、経営評価指標の財務状況の評点が低下している。あわせて、人件費の増加により効率性のうち人件費比率の評点も低下している。ただし、全体として評点の低下はわずかであり、前年度からA評価を維持していることから、経営の健全性は確保されている。 ・施設の計画的な修繕を行いつつも、経常損益の黒字化を図るため、より効率的な業務執行や大会誘致、委託事業の受託等に積極的に取り組み収益の確保に努める必要がある。 	



【総合所見等に対する今後の対応方針】

<ul style="list-style-type: none"> ・誘致した大規模大会の継続開催により安定した経営基盤を確立するとともに、新たな合宿や強化トレーニングの誘致や主催大会への参加者を増やすことにより今後も収入増加を図っていく。 ・さらに、令和3年度は外部受託事業の積極的な実施を図るとともに、引き続き経費削減に努め、経営計画に基づいた効率的な運営に取り組んでいく。 ・また、研修等の実施による職員の能力向上に加え、今後の大規模大会に向けて計画的に施設の機能向上を図り、サービスの充実に努めていく。
